

ぱーとなー

2006年12月
第61号

耳原総合病院の理念

耳原総合病院はこんな医療をめざしています

◎ 安全・安心・信頼の医療

私たちは患者様とともに力を合わせて医療をすすめます

◎ 無差別平等の医療

私たちは人権を尊重した医療をすすめます

◎ 患者負担の少ない医療

私たちは室料差額はいたしません

◎ 地域とともに歩む専門職の育成

人権感覚をもつ専門職を養成します

肺癌の診断から集学的治療まで！

呼吸器外科では、肺癌、気胸などの肺疾患、胸膜中皮腫や縦隔腫瘍などの呼吸器全般の手術を行っています。肺癌の手術では、患者様の負担の少ない胸腔鏡補助下の手術に積極的にとりこんでいます。

また手術だけでなく、未診断の肺腫瘍の精査や、手術不能症例に対する放射線、化学療法などの治療に関しても診療を担当しています。

とくに肺癌に対しては手術だけでなく、術後補助療法として、抗癌剤治療や放射線治療などを併用した集学的治療を積極的に取り入れ、個々の患者様に合わせた、よりよい治療を目指しております。

肺癌治療の現状

2001年から2005年までに当院で行われた呼吸器外科手術228例のうち、約半数は肺癌でした。

《早期発見》

当院では被爆量の少ない、マルチスライスCTによるヘリカル撮影を用いた肺癌健診に取り組んでいます。発見から治療に至るまでのタイムラグを短くするために、健診後の精査は主に呼吸器外科で担当しています。

《診断》

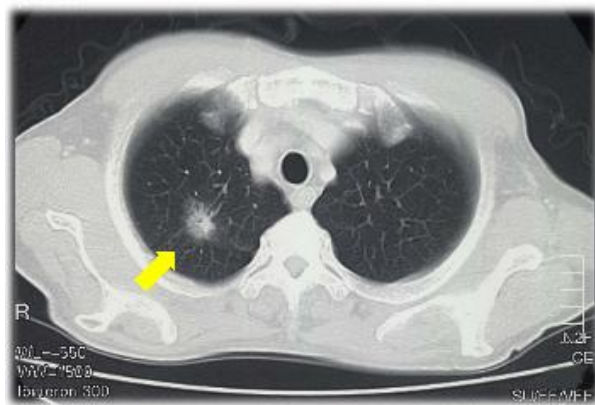
組織診断のための気管支鏡やCTガイド下の経皮針生検などにも呼吸器外科が積極的に関わっています。

また画像診断の進歩により、数mmの大きさで発見され、他の方法では診断がつけにくいような早期肺癌でも、胸腔鏡下生検を行うことで一期的に診断、治療を行うことが可能です。

《治療》

当院で行っている呼吸器外科手術のうち、胸腔鏡補助下の手術（Video Assisted Thoracic Surgery いわゆる VATS）が60%以上を占めます。

従来の胸腔鏡補助下の手術でも小さな開胸を併用したり、肋骨の間を広げる開胸器を使用したりすることがあり、必ず



しも痛みが軽くなるとは限りませんでした。当院では大阪府下でも少ない、2ヵ所の傷から手術を行うという方法を取り、開胸器の使用をできるだけ避け、手術器具を工夫して術後の痛みを軽減するように心がけています。創痛が軽いため、術後の離床が早く、術後1週間程度での退院も可能です。

一方で胸腔鏡手術においては、従来の後側方開胸手術よりも高い医療技術と専用の手術器具が必要とされます。胸腔鏡手術を行う上でも、安全性を第一に考えて手術を行うように心がけています。

また近年は肺癌診療ガイドラインでも術後補助化学療法を行うことが推奨されています。投与法の工夫や副作用対策をしっかりとることで、少しでも苦痛の少ない化学療法となるように努力しています。

術前と変わらない日常生活を送りながら治療を受けるために、外来化学療法センター（地域がん診療支援センター内）において、外来での化学療法にも対応しています。現在一月当たり、のべ20～30人の患者様が外来化学療法を受けておられます。

医療技術の進歩にも関わらず、肺癌は依然として予後の悪い疾患です。再発などで不幸な転帰となることも決して少なくありません。当科ではそのような際も、大病院にありがちな「終末期は他の病院で」などということはず、最後まで責任を持って診療に当たらせていただきます。

また当院には緩和ケア病棟も併設されており、患者様の病状やご希望がありましたら、緩和ケア科の医師との連携のもとで、こちらでの療養も可能です。



外来化学療法室



緩和ケア病棟

〒114-8501	耳原総合病院地域医療室	〒114-8501
〒114-8501	電話 072-241-0324	〒114-8501
〒114-8501	Fax ①072-241-0208	〒114-8501
〒114-8501	Fax ②072-241-0670	〒114-8501
	受付時間 月・水・金 午前9:00～午後7:00	
	火・木 午前9:00～午後5:00	
	土 午前9:00～午後1:00	

☆☆☆お電話で患者さまのご都合に合わせて予約いただけます。

折り返しFAXにて予約票をお送りします。☆☆☆

☆☆☆事前にカルテを準備してお待ちします。

カルテ作成に必要な情報をFAXして下さい。☆☆☆

☆☆☆予約当日、患者さまが受診の際保険証②診療情報提供書③上記予約票をご持参下さい。☆☆☆